

---

**2016年3月期 決算 及び  
2017年3月期 業績見通し  
説明資料**

---

**帝人株式会社**

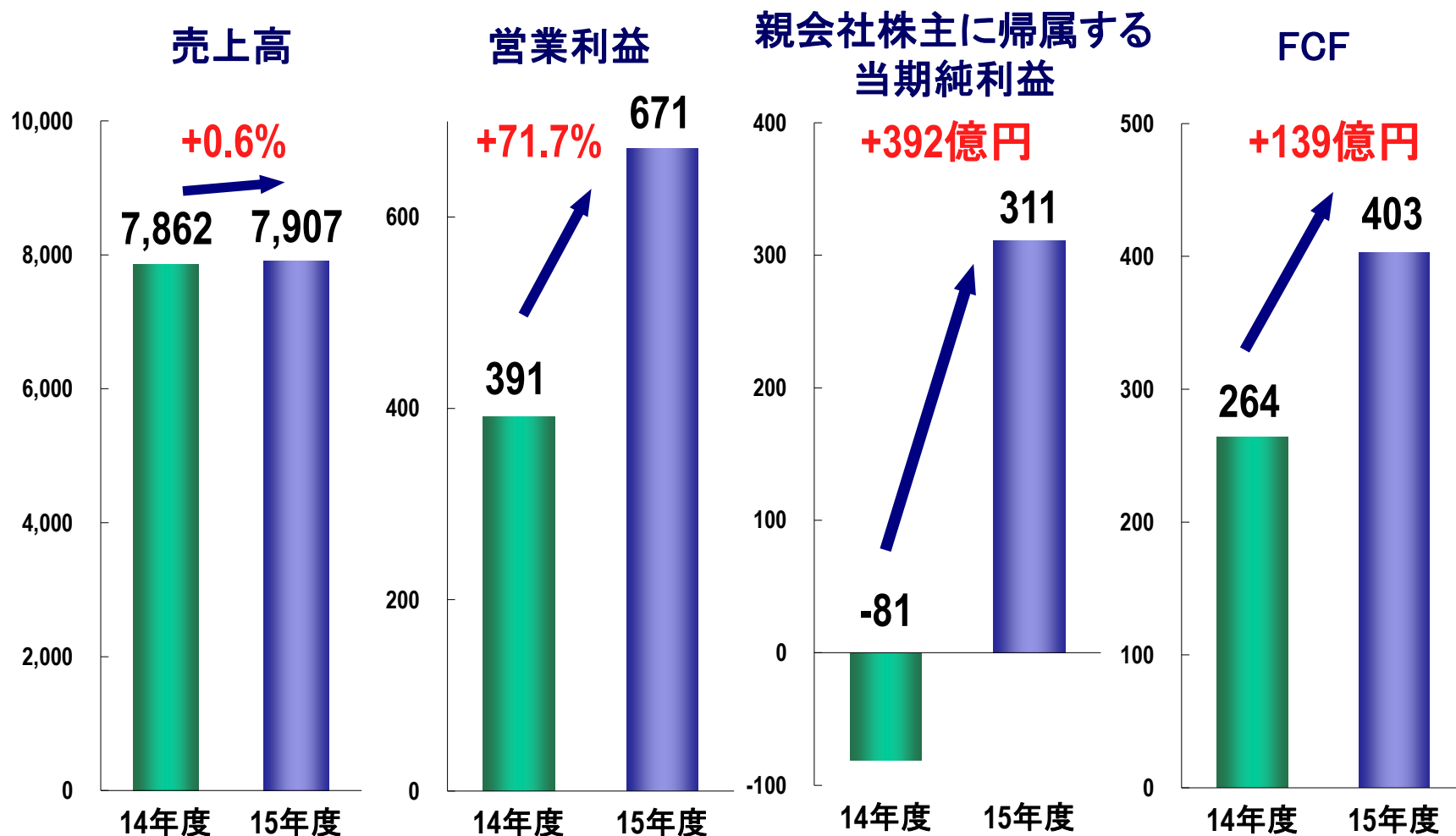
**2016年5月6日**

# 2016年3月期 決算概況

# (1) 2016年3月期 決算概況

(億円)

## 年度累計



◆ 経営成績 (億円)	14年度	15年度	差異
売上高	7,862	7,907	+46
営業利益	391	671	+280
< 営業利益率 >	5.0%	8.5%	+3.5%
営業外損益	33	-68	-101
経常利益	424	603	+179
特別損益	-493	-147	+346
税金等調整前 当期純利益	-69	456	+525
法人税等	31	164	+133
非支配株主に帰属する 当期純利益	-19	-19	+0
親会社株主に帰属する 当期純利益	-81	311	+392
EPS(円)	-8.23	31.63	+39.86

EBITDA *1	821	1,060	+239
設備投資 *2	281	383	+102
減価償却費	430	389	-41
研究開発費	324	333	+9
FCF	264	403	+139

\*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出 \*2: 設備投資には無形固定資産を含む

### ▶ 売上高 微増収

- ・ 樹脂シンガポール生産停止に伴う減収を、ヘルスケア・製品事業等の増収でカバー

### ▶ 営業利益・経常利益 大幅増益

- ・ 原燃料価格の低下、構造改革効果により、素材事業の収益率改善
- ・ ヘルスケア事業も堅調に収益拡大
- ・ 持分法による投資損失計上により営業外収支悪化

### ▶ 純利益 大幅増益

- ・ 特別損失の発生減少も寄与

### ◇ PL換算レート

	14年平均	15年平均
円/米ドル	110	120
円/ユーロ	139	133
米ドル/ユーロ	1.26	1.10

## ◆ 営業外損益

(億円)	14年度	15年度	差異
受取利息	6	7	+0
受取配当金	13	17	+3
持分法による投資利益	24	—	-24
為替差益	10	—	-10
デリバティブ評価益	27	—	-27
雑収入	11	14	+3
営業外収益 計	92	38	-54
支払利息	31	24	-6
持分法による投資損失	—	*29	+29
為替差損	—	9	+9
デリバティブ評価損	—	13	+13
寄付金	9	9	-1
雑損失	19	22	+3
営業外費用 計	59	106	+47
営業外損益 計	33	-68	-101

## ◆ 特別損益

(億円)	14年度	15年度	差異
固定資産売却益	7	3	-4
減損損失戻入益	1	33	+32
投資有価証券売却益	1	1	-0
その他	0	9	+9
特別利益 計	10	45	+36
固定資産除売却損	13	29	+16
減損損失	304	76	-228
投資有価証券評価損	0	6	+6
構造改善費用	168	55	-113
その他	18	28	+9
特別損失 計	503	193	-310
特別損益 計	-493	-147	+346

\*中国でのケミカルリサイクル素材の市場形成遅れを踏まえ、出資金の評価損失等を計上

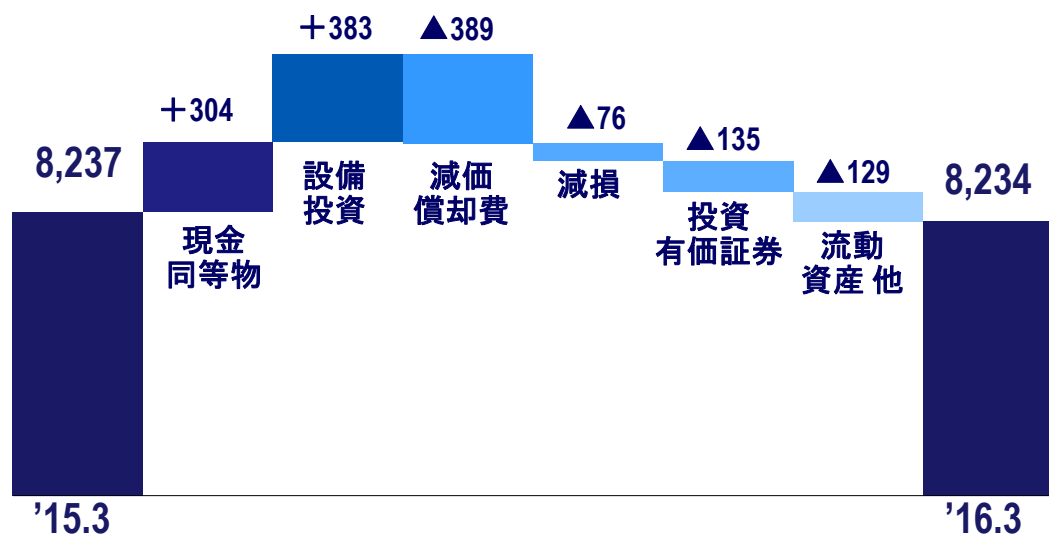
## ◆ 財政状態

(億円)	15年 3月末	16年 3月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	8,237	8,234	-3	-154
自己資本	2,871	3,001	+130	-70
有利子負債	3,082	3,033	-49	-50
D/Eレシオ	1.07	1.01	-0.06	
自己資本比率	34.9%	36.4%	+1.6%	

## ◆ キャッシュ・フローの状況

(億円)	14年度	15年度	差異
営業活動	760	806	+46
投資活動	-496	-403	+93
FCF	264	403	+139
財務活動他	112	-99	-211
現金及び 現金同等物 増減	376	304	-72

## ◇ 総資産増減内訳



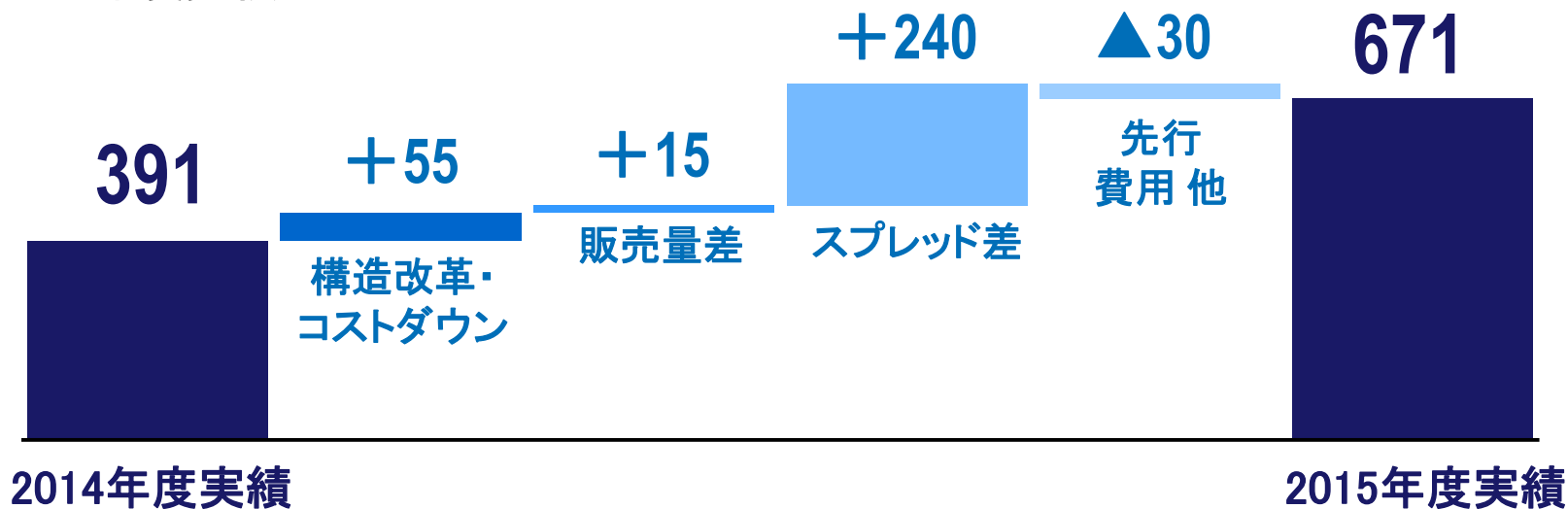
## ◇ BS換算レート

	15年 3月末	16年 3月末
円/米ドル	120	113
円/ユーロ	130	128
米ドル/ユーロ	1.08	1.13

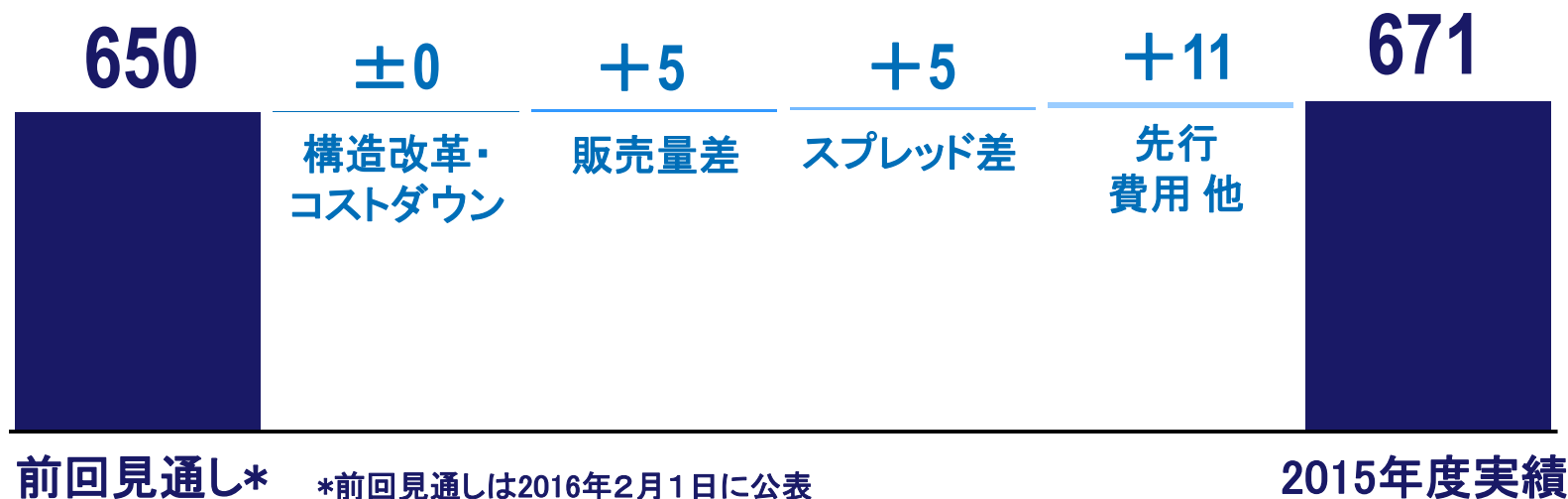
◆ 営業利益増減分析

➤ 2014年度実績対比

(億円)



➤ 前回見通し対比



\*前回見通しは2016年2月1日に公表

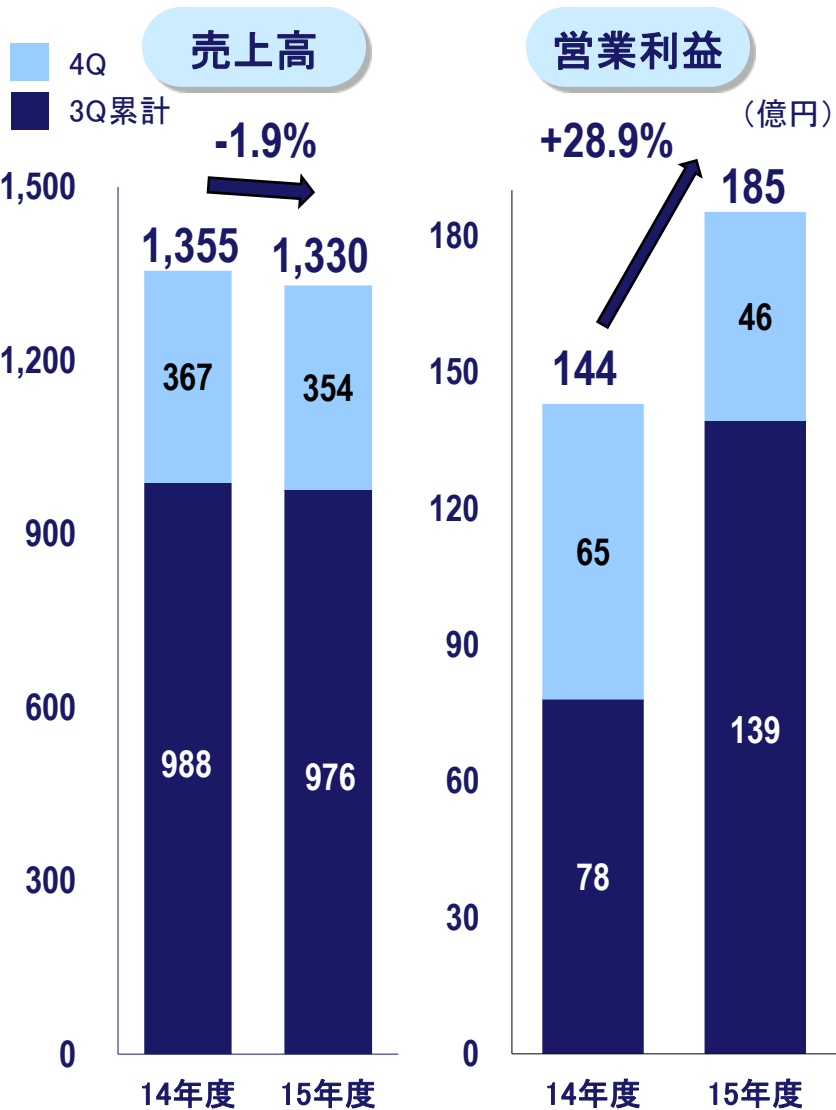
## (2) セグメント別 売上高・営業利益比較(対 前年同期)

(億円)	売上高				営業利益			
	14年度	15年度	差異	増減率	14年度	15年度	差異	増減率
高機能繊維・複合材料	1,355	1,330	-25	-1.9%	144	185	+41	+28.9%
電子材料・化成品	1,848	1,637	-211	-11.4%	34	223	+189	+555.4%
ヘルスケア	1,417	1,475	+58	+4.1%	248	288	+40	+16.0%
製品	2,594	2,709	+116	+4.5%	42	53	+11	+25.4%
計	7,214	7,152	-62	-0.9%	468	749	+281	+60.0%
その他	648	756	+108	+16.7%	40	65	+25	+62.9%
消去又は全社	—	—	—	—	-117	-143	-26	—
合計	7,862	7,907	+46	+0.6%	391	671	+280	+71.7%



# ①高機能繊維・複合材料事業

ポリエステル構造改革もあり売上高横ばいも、販売構成改善・原燃料コスト減で大幅増益

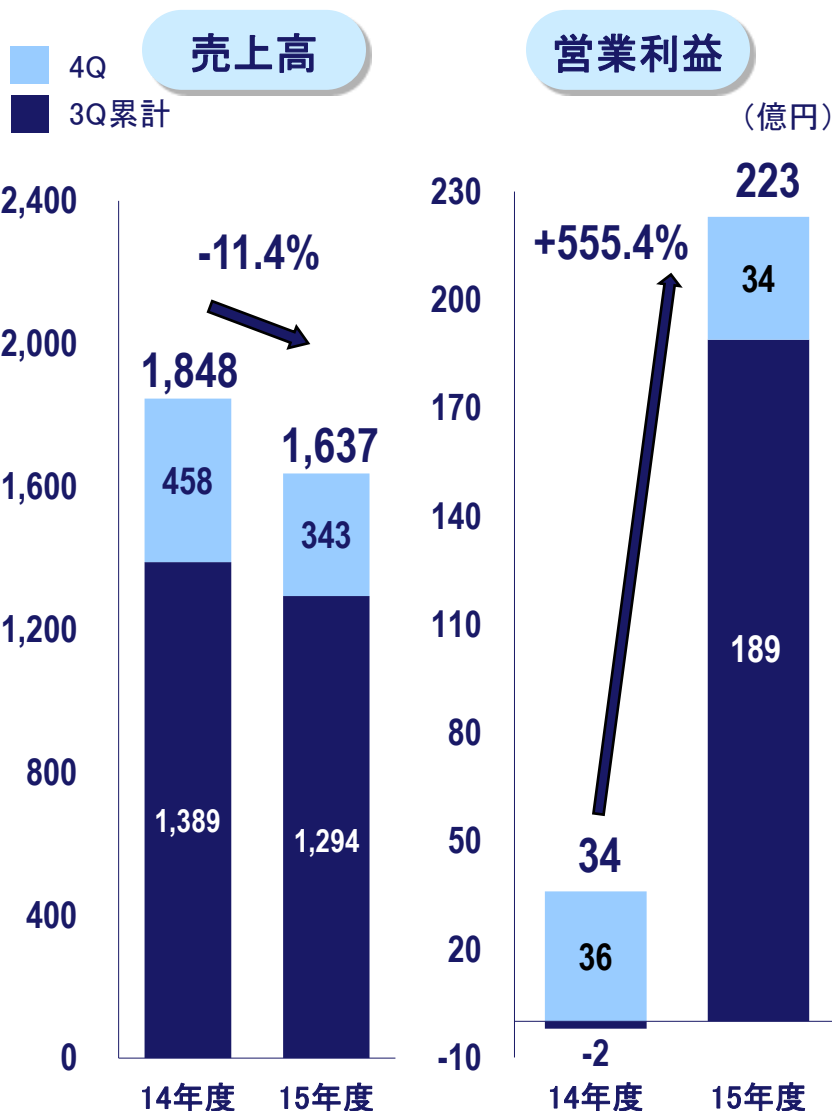


(億円)	14年度	15年度	差異	増減率
売上高	1,355	1,330	-25	-1.9%
営業利益	144	185	+41	+28.9%

- ◇ **高機能繊維:**
  - パラアラミド繊維:
    - ・自動車(タイヤ)用途向け順調に拡大
    - ・防弾用途は回復傾向
    - ・ユニフォームや光ファイバー用途は低調
  - メタアラミド繊維:
    - ・フィルター用途は激しい競争環境が継続
    - ・自動車関連、防護衣料、産業資材用途は堅調
  - ポリエステル繊維:
    - ・自動車用途は国内外とも軟調
    - ・RO膜支持体用途や衛材・詰綿等が堅調
- ◇ **炭素繊維・複合材料:**
  - ・航空機用途は順調に推移
  - ・スポーツ・レジャー用途は需給バランス軟化
  - ・耐炎繊維は航空機ブレーキ材向けが堅調

## ②電子材料・化成品事業

樹脂シンガポール撤収により減収も、原料価格低下・構造改革効果で大幅増益



(億円)	14年度	15年度	差異	増減率
売上高	1,848	1,637	-211	-11.4%
営業利益	34	223	+189	+555.4%

### ◇樹脂:

#### PC樹脂:

- 主原料価格の低下、構造改革効果の発現により利益大幅改善
- シンガポール工場停止(2015年12月)により販売構成改善・固定費圧縮を推進
- PPS樹脂、高機能繊維等を活用し、高付加価値品の開発・販売に注力

#### 樹脂加工品・特殊PC:

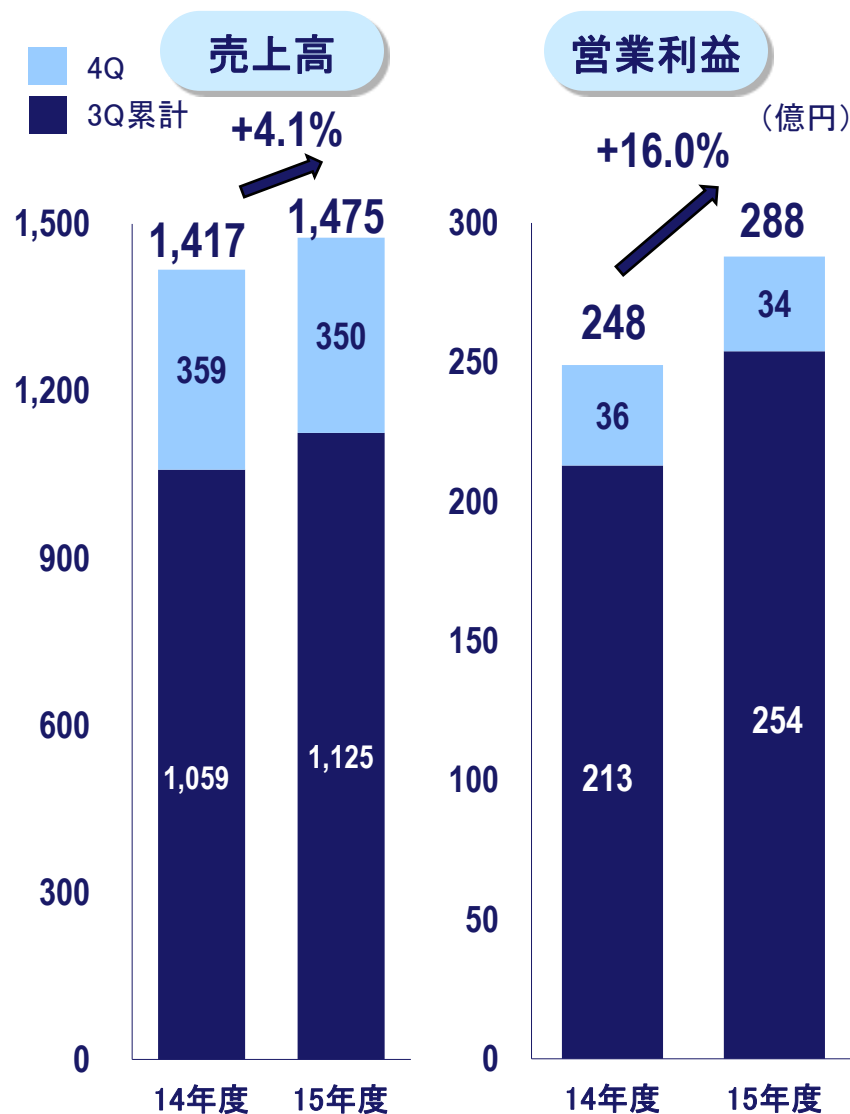
- 位相差フィルム、逆波長分散フィルム堅調維持
- タッチパネル向け透明導電性フィルム好調

### ◇フィルム:

- 液晶TV向け反射板は厳しい競合環境が継続
- 特殊包装用途需要も低調推移
- 工程用離型フィルム堅調

### ③ヘルスケア事業

主力製品(フェブキソスタット、CPAP)の順調な拡大により増収・増益



(億円)	14年度	15年度	差異	増減率
売上高	1,417	1,475	+58	+4.1%
営業利益	248	288	+40	+16.0%

#### ◇ 医薬品:

- ・ 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブキソスタット」、先端巨大症治療剤「ソマチュリン\*1」等の新薬群が順調に拡大
- ・ 長期収載品は厳しい事業環境続くも、骨粗鬆症治療剤「ボナロン\*2」、去痰剤「ムコソルバン」の剤形追加品拡大に注力

#### ◇ 在宅医療:

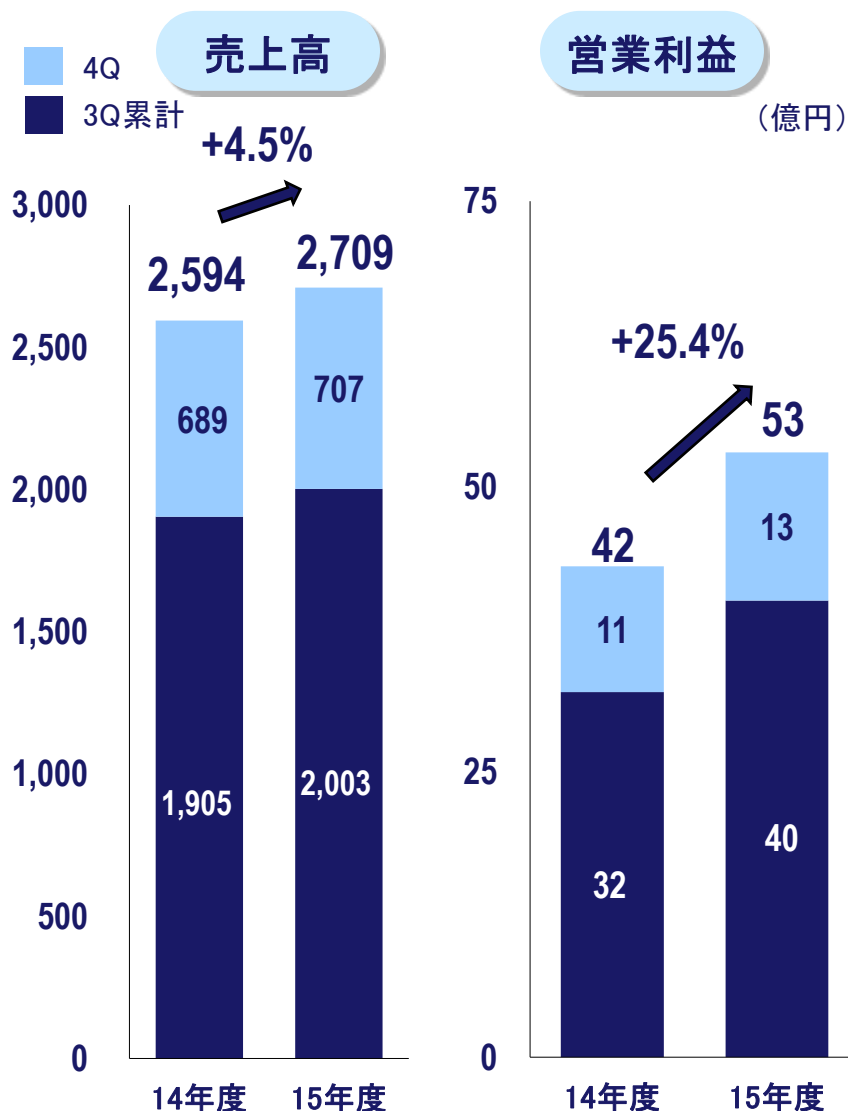
- ・ HOT: レンタル台数を維持
- ・ CPAP: レンタル台数は着実に伸長  
新製品の投入で台数拡大を目指す
- ・ 米国では厳しい事業環境が継続  
営業所の統廃合・人員削減等の改善策を推進

\*1 ソマチュリン<sup>®</sup>/Somatuline<sup>®</sup>は、Ipsen Pharmaの登録商標です。

\*2 ボナロン<sup>®</sup>/Bonalon<sup>®</sup>はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

## ④製品事業

スポーツ衣料向け高機能素材の拡販、中国子会社の業績回復により増収増益



(億円)	14年度	15年度	差異	増減率
売上高	2,594	2,709	+116	+4.5%
営業利益	42	53	+11	+25.4%

### 衣料繊維:

- ・スポーツ衣料は国内外で好調に推移
- ・円安、海外生産のコストアップ、秋冬物の販売不振等により、衣料製品は苦戦
- ・ユニフォームは苦戦も、原糸販売は差別化品が好調、テキスタイル販売も中東向けが伸長
- ・アセアン地域(ベトナム・ミャンマー)を中心に、生産基盤拡充、受注対応力強化

### 産業資材:

- ・タイヤ補強材・ゴム資材等は安定推移
- ・エアバック生産はフル稼働へ、更なる増産を計画
- ・繊維資材は、一部国内が不調も、海外好調

## ◆セグメント別 売上高・営業利益推移(前回見通し対比)

(億円)		前回見通し*			15年度実績			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
売上高	高機能繊維・複合材料	654	746	1,400	654	676	1,330	-70
	電子材料・化成品	873	777	1,650	873	764	1,637	-13
	ヘルスケア	748	702	1,450	748	727	1,475	+25
	製品	1,301	1,349	2,650	1,301	1,408	2,709	+59
	計	3,577	3,573	7,150	3,577	3,575	7,152	+2
	その他	344	406	750	344	412	756	+6
合計		3,921	3,979	7,900	3,921	3,987	7,907	+7
営業利益	高機能繊維・複合材料	93	92	185	93	92	185	-0
	電子材料・化成品	119	86	205	119	104	223	+18
	ヘルスケア	168	122	290	168	120	288	-2
	製品	22	28	50	22	31	53	+3
	計	401	329	730	401	348	749	+19
	その他	19	41	60	19	46	65	+5
	消去又は全社	-67	-73	-140	-67	-76	-143	-3
合計		353	297	650	353	318	671	+21

\*前回見通しは2016年2月1日に公表

# 2017年3月期 通期業績見通し

## ◆ 2016年度 短期運営方針

### ➤ 修正中期計画の最終年度として

構造改革の着実な実行

主力製品・サービスの販売拡大

積極的な発展戦略投資の推進

期間損益の最大化

将来の発展への布石

### ➤ 次期中期計画の策定に向けて

中長期に向けた成長シナリオの具現化

ソリューション提供型事業体への転換に向けた道筋の明確化

## ◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	15年度 実績	16年度 見通し	差異	
			金額	%
売上高	7,907	7,750	-157	-2.0%
営業利益	671	580	-91	-13.6%
<営業利益率>	8.5%	7.5%	—	-1.0%
経常利益	603	580	-23	-3.8%
当期純利益	311	360	+49	+15.8%

## ◇ 配当 (実績及び見通し)

(円/株)	15年度 実績	16年度 見通し
中間配当	3.0	5.0
期末配当	4.0	5.0
年間配当	7.0	10.0

EBITDA *1	1,060	980	-80
設備投資*2	383	550	+167
減価償却費	389	400	+11
研究開発費	333	340	+7
FCF	403	100	-303

## ◇ 前提条件 (実績及び見通し)

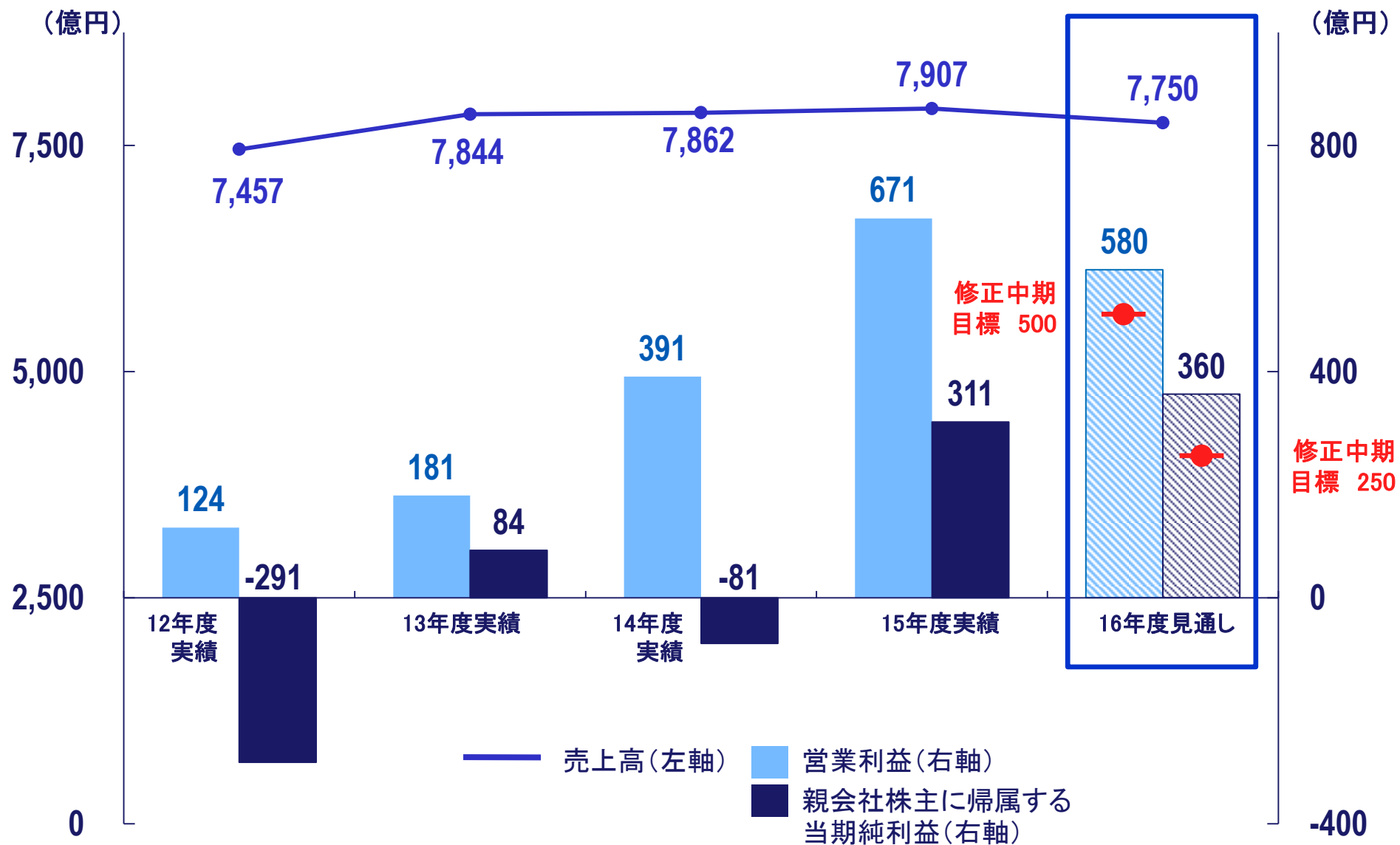
	15年度 実績	16年度 見通し
通期為替レート 円/米ドル	120	110
円/ユーロ	133	122
原油価格(Dubai) 米ドル/バレル	46	45

\*1: EBITDA (営業利益+減価償却費)にて算出

\*2: 設備投資には無形固定資産を含む



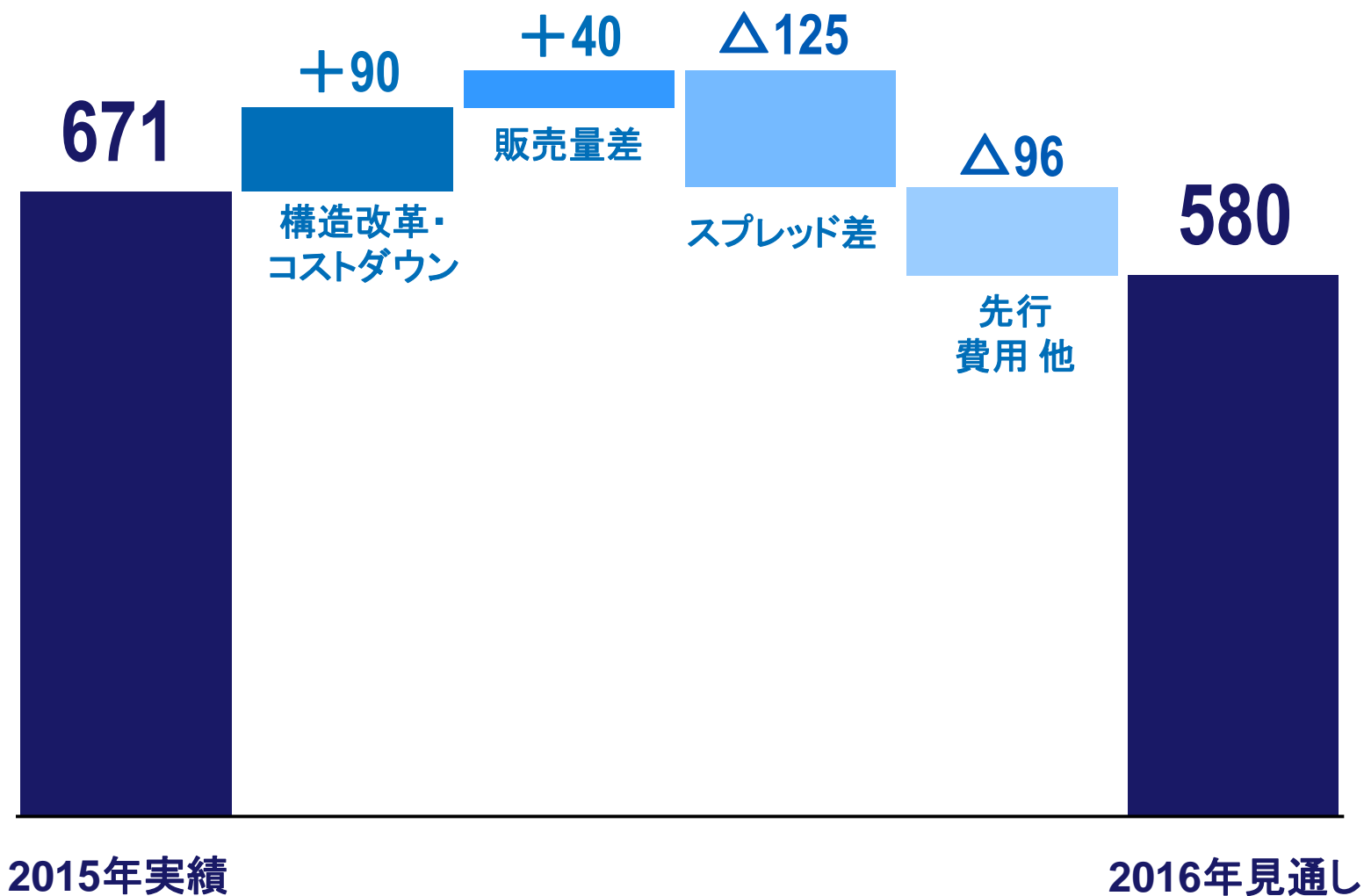
### ◆ 時系列推移



## ◆ セグメント別 売上高・営業利益推移(前年実績対比)

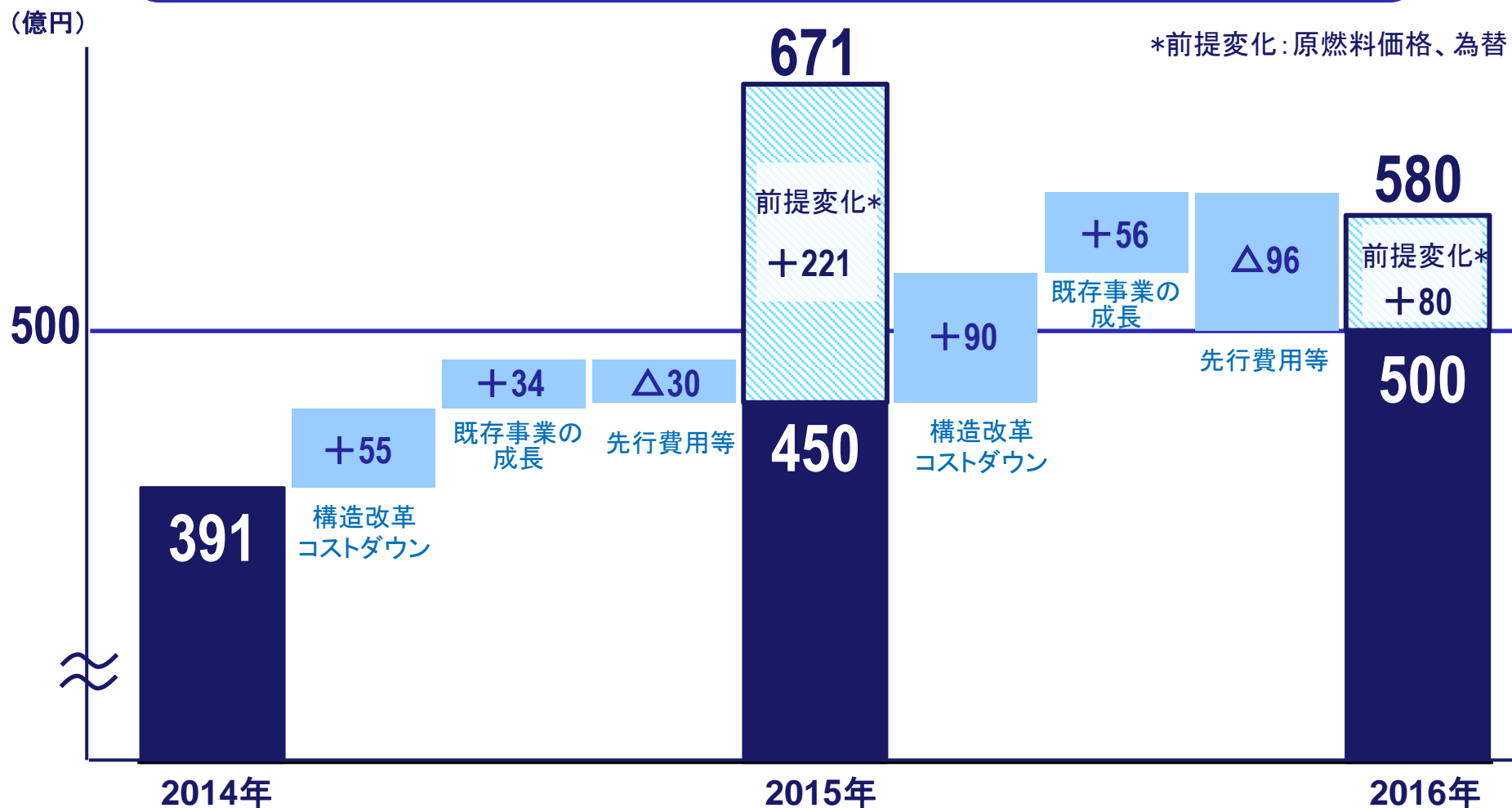
		15年度実績			16年度見通し			年間 差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	
(億円)								
売上高	高機能繊維・複合材料	654	676	1,330	650	700	1,350	+20
	電子材料・化成品	873	764	1,637	700	700	1,400	-237
	ヘルスケア	748	727	1,475	700	750	1,450	-25
	製品	1,301	1,408	2,709	1,300	1,500	2,800	+91
	計	3,577	3,575	7,152	3,350	3,650	7,000	-152
	その他	344	412	756	350	400	750	-6
	合計	3,921	3,987	7,907	3,700	4,050	7,750	-157
営業利益	高機能繊維・複合材料	93	92	185	75	110	185	+0
	電子材料・化成品	119	104	223	75	60	135	-88
	ヘルスケア	168	120	288	140	160	300	+12
	製品	22	31	53	25	35	60	+7
	計	401	348	749	315	365	680	-69
	その他	19	46	65	10	55	65	+1
	消去又は全社	-67	-76	-143	-85	-80	-165	-22
合計	353	318	671	240	340	580	-90	

## ◆ 営業利益増減内訳 (億円)



## ◆ 営業利益構造変化 (2014年を起点とした場合)

外部環境要因を除いた基礎収益力は、  
修正中期計画で掲げた目標を達成する見込み



## ◆ 環境前提

為替	110円／米ドル、122円／ユーロ
原油価格	45米ドル／bl *    * Dubai 価格

## ◆ 主要事業 短期アクション

事業	主要施策・アクション
高機能繊維	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ テクノーラ増設(来秋)を踏まえたパラアラミド繊維の拡販</li> <li>・ 新規メタアラミド繊維の早期収益貢献</li> <li>・ ポリエステル繊維構造改革の着実な推進</li> </ul>
炭素繊維 ・ 複合材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空機向け需要拡大対応</li> <li>・ プリプレグ、コンポジット事業の拡大</li> </ul>
医薬品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ フェブキソスタット、ロコアテープの拡販</li> <li>・ パイプライン強化に向けた、提携・M&amp;Aの積極推進</li> </ul>
在宅医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CPAPの拡販</li> <li>・ 米国事業の抜本的改革の完了</li> </ul>

## ◆ 主要事業短期アクション(続き)

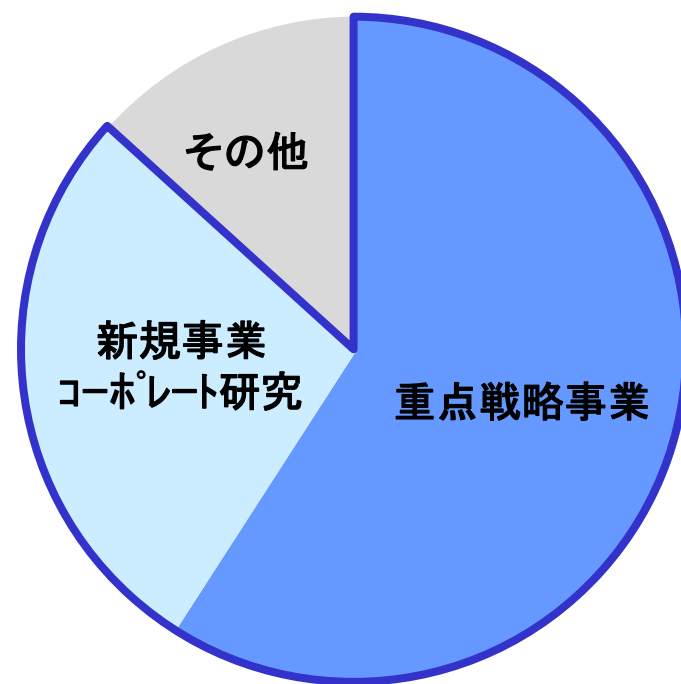
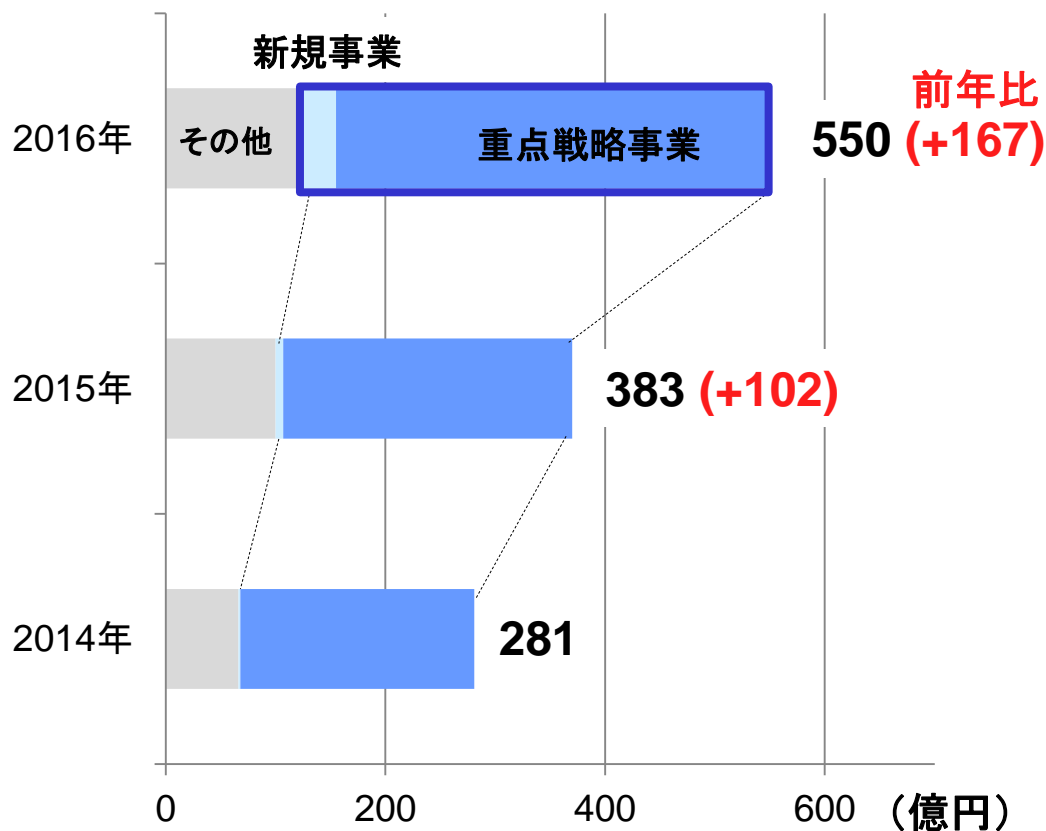
事業	主要施策・アクション
製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツ衣料向け等の機能素材の拡販</li> <li>・ 産業資材分野でのグローバル生産力の強化</li> </ul>
IT	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子書籍事業の拡大</li> <li>・ ヘルスケア領域の強化</li> </ul>
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンパウンド品の製品ラインナップ強化</li> <li>・ 自動車、インフラ等の成長領域での拡販</li> </ul>
フィルム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内生産拠点集約の着実な推進</li> <li>・ 海外でのOEM委託生産の活用</li> </ul>
共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ありたい姿」の実現に向けた組織再編の検討</li> <li>・ 継続的・徹底的なコスト合理化</li> </ul>

## ◆ 投入資源

重点戦略事業・新規事業への重点的な資源配分を引き続き実施

【設備投資】 2016年度：550億円

【研究費】 2016年度：340億円



重点戦略事業を中心に、前年度対比で約50%増の積極投資

重点戦略事業・新規事業に研究開発費の8割超を投入

## ◆ 主要経営指標

	12年度 実績	13年度 実績	14年度 実績	15年度 実績	16年度 見通し
ROA：営業利益／総資産	1.6%	2.4%	4.9%	8.2%	6.9%
ROE：当期利益／自己資本*1	-10.3%	3.0%	-2.8%	10.6%	11.3%
売上高営業利益率	1.7%	2.3%	5.0%	8.5%	7.5%
D/Eレシオ*2	1.00	1.00	1.07	1.01	0.9
自己資本比率	35.6%	36.7%	34.9%	36.4%	38.5%

1株当たり当期純利益(円)	-29.6	8.5	-8.2	31.6	36.6
1株当たり配当金(円)	4.0	4.0	4.0	7.0	10.0

総資産(億円)	7,624	7,684	8,237	8,234	8,700
有利子負債(億円)	2,708	2,815	3,082	3,033	3,000
EBITDA(億円)*3	592	637	821	1,060	980

\*1 「当期純利益÷自己資本」にて算出

\*2 「有利子負債÷自己資本」にて算出

\*3 「営業利益+減価償却費」にて算出



# 修正中期計画の進捗

◆ 構造改革の進捗

	2015	2016	2017～
樹脂	シンガポール工場撤収 ★	完了	高付加価値用途 への特化 複合領域の開拓
	コンパウンド注力 自動車、インフラ、住設、医療用途拡大		
フィルム	高機能ガラス、電池分野、センサー分野注力 難燃フィルム等の活用	国内生産一元化 ★	
	宇都宮への段階的生産移管	想定通り進捗	
米国在宅	営業所統廃合 人員削減	半年程度遅延見込み	
		抜本的対策の実施 (★)	
高機能繊維		想定通り進捗	国内工場の 一部閉鎖・生産停止 ★
	ポリエステル繊維 タイへの段階的生産移管		
原料重合	DMT生産停止 ★	完了	ポリマー重合工場再編 ← (★) →

## ◆ 構造改革効果(2014年度対比)

(億円)

	修正中期		見通し		差異
	2016	累計	2016	累計	累計
電子材料 ・化成品	45	75	50	80	+5
ヘルスケア	30	40	20	30	△10
高機能繊維 ・複合材料	5	5	5	5	-
原料・重合他	5	10	5	10	-
<b>効果額 合計</b>	<b>85</b>	<b>130</b>	<b>80</b>	<b>125</b>	<b>△5</b>

・ヘルスケア（北米在宅医療）について、2016年央には損益均衡に向けた抜本的改革を実施予定も当初スケジュールからはやや遅延、効果は翌年度にずれ込み

**⇒ 総額では概ね当初見込みを達成**

## ◆ 発展戦略の進捗 【環境・省エネ ソリューション】

~2015年度

2016年度

### 炭素繊維・複合材料

- **高強度・高弾性** 炭素繊維 開発
- **熱硬化性CFRP 一貫生産体制** 構築
- **熱可塑性織物プリプレグ** 販売開始
- **革新的炭素化工程** / 表面処理技術の開発 [ NEDO\*プロジェクト ]

\*国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

- 各種**用途開発**を更に推進
- **熱可塑CFRP**の**試作対応**強化
- **北米**での**新工場建設検討**  
(米国内に土地取得へ)

⇒ **航空機用途拡大・  
量産自動車への展開**



### 次世代電池技術

- **セパレータ事業**の拡大
- **高効率太陽電池**部材の開発  
(「NanoGram」シリコンペースト)

- **エンドユーザー・マーケティング**  
による新規採用活動を継続
  - **レーザードーピング**技術確立
- ⇒ **高効率電池部材への展開**



## 【少子高齢化・健康志向 ソリューション】

~2015年度

2016年度

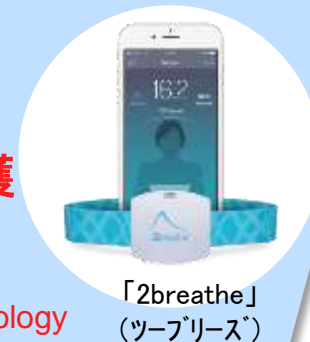
### ヘルスケア ネットワーク展開

- **患者情報共有システム**「バイタルリンク」販売開始
- (株)ソラストとの業務・資本提携
- **IoT事業** 開発推進・外部提携 (Infocom)
- **デバイス技術** 開発 — 圧電ファブリック RFID棚管理システム、心電計測ウェアラブル
- **睡眠関連**プロジェクト  
アプリ販売、情報提供サイトの運営開始

- **地域包括ケア推進**を検討している、  
地方自治体/業界団体への導入・利用促進
- **最適ソリューション**の提案、モデル採用  
を通じて本格事業化を検証

⇒ **ICT\***を核とした**医療・介護  
総合サービスの展開**

\*Information and Communication Technology



### 先端医療材料

- **人工関節事業**への参入  
帝人ナカシマメディカル設立
- **融合製剤棟**の稼働開始  
外科手術用シート状接着剤「KTF-374」  
心臓修復パッチ

- 膝関節に加え股関節領域の販売拡大  
**帝人ファーマとの協業**推進
- 早期上市に向けた開発加速

⇒ **素材技術を活かした  
新規ヘルスケア事業を育成**



## 【安心・安全・防災 ソリューション】

~2015年度

2016年度

### 安全・防災関連用途

#### ➤ 新規メタアラミド繊維の事業化

#### ➤ 製品用途ラインナップ拡充

#### 耐震構造材

超軽量天井材「かるてん」、  
高靱性構造材、耐震リフォーム材

#### 防災製品

「もうたんか」、航空貨物コンテナ、  
火山噴石対策用アラミド繊維織物

#### ➤ 災害・救急自動車映像伝送システム (Infocom)

- 防護衣料(消防・警察ほか)への資源集中
- センサー技術、スマートテキスタイルの導入検討



⇒ 素材間融合、ITとの連携による  
新たなソリューションへの展開

◆ 最後に

帝人が目指すゴール

新たな価値創造を通じて、未来の社会を支える企業体

新たな価値創造のために必要なこと

「顧客が求めるもの／こと＝付加価値の源泉」の見極め

「ソリューションの提供」

外部環境の変化に左右されず、持続的な成長を実現  
するための事業ポートフォリオの構築

# 見直しに関する注意事項と事業等のリスク

## 見直しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## 事業等のリスク

業績等に影響を与える可能性のある重要な要因には、以下の事項があります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

### ① 競合・市況変動にかかもの

帝人グループは市況製品を展開しており、景気動向、他社との競合に伴う市場価格の変動、購入原燃料の価格変動、また為替、金利といった相場の変動が事業業績に影響を及ぼす可能性があります。

### ② 製品の品質にかかもの

事業活動全般において品質保証を確保する体制を敷いていますが、製品・サービスの欠陥が業績、財務状況、社会的評価等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### ③ 研究開発にかかもの

研究開発に対し積極的に経営資源を投入していますが、特に医療用医薬品の開発には、多額の費用と長い期間がかかるうえ、創薬研究において、有用な化合物を発見できる可能性は決して高くありません。また、種々の要因により承認申請を断念しなければならない可能性があります。また、承認申請した後でも承認が取り消されることがあります。

### ④ 海外活動にかかもの

海外での活動について為替変動に係るリスクのほか、予期しない法律・規制の施行、不利な影響を及ぼす租税制度の変更、経済変動、政変・テロ・戦争等による社会的混乱により、経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

### ⑤ 事故・災害にかかもの

大規模な自然災害や不慮の事故等により生産設備が損害を受けた場合や原材料の供給等サプライチェーンに大きな障害が生じた場合は、帝人グループの経営成績及び財務状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

本資料は、2016年5月6日午前11時30分に公表した弊社決算発表に基づくものです。  
本資料に記載された製品名等は登録商標です。



## ◆ 連結貸借対照表

(億円)	14年 6月末	14年 9月末	14年 12月末	15年 3月末	15年 6月末	15年 9月末	15年 12月末	16年 3月末
<b>資産 合計</b>	7,838	7,798	8,327	8,237	8,164	8,027	8,219	8,234
流動資産	3,676	3,708	4,131	4,060	3,956	3,956	4,150	4,305
固定資産	4,162	4,090	4,196	4,177	4,208	4,071	4,069	3,929
<b>負債・純資産 合計</b>	7,838	7,798	8,327	8,237	8,164	8,027	8,219	8,234
負債	4,838	4,993	5,391	5,201	4,963	4,838	4,918	5,090
(内 有利子負債)	3,034	3,020	3,173	3,082	2,943	2,836	2,811	3,033
純資産	3,000	2,805	2,936	3,036	3,202	3,190	3,301	3,144

\* 詳細については決算短信をご覧ください

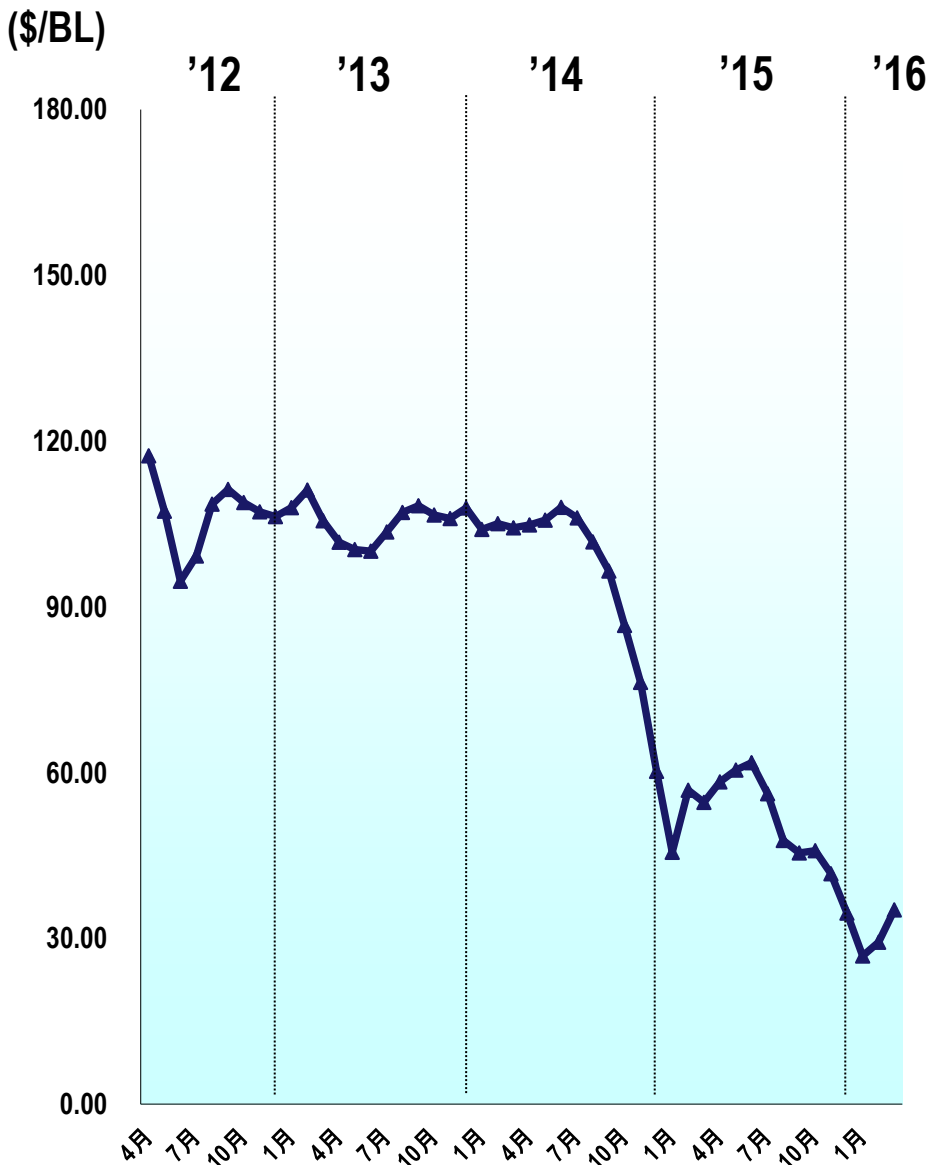
## ◆ 連結損益計算書

(億円)	14年度				15年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,819	1,955	2,011	2,077	1,926	1,995	1,992	1,995
売上原価	1,339	1,452	1,451	1,453	1,308	1,345	1,340	1,370
売上総利益	480	503	560	624	617	650	653	624
販管費	431	430	435	479	453	461	451	508
営業利益	48	73	124	145	164	189	201	116
営業外損益	-2	21	25	-11	16	-11	8	-81
(内 金融収支)	1	-5	-2	-6	5	-5	1	-3
(内 持分法投資損益)	4	12	9	-1	9	11	5	-55
経常利益	47	94	149	134	180	179	210	35
特別損益	-8	-412	-41	-32	-13	-16	-78	-41
税前利益	39	-319	108	102	167	163	132	-6
法人税等	24	-57	29	35	55	35	43	31
非支配株主に帰属する 四半期純利益	-1	-22	-0	4	0	-4	-16	1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16	-240	79	63	112	133	105	-38

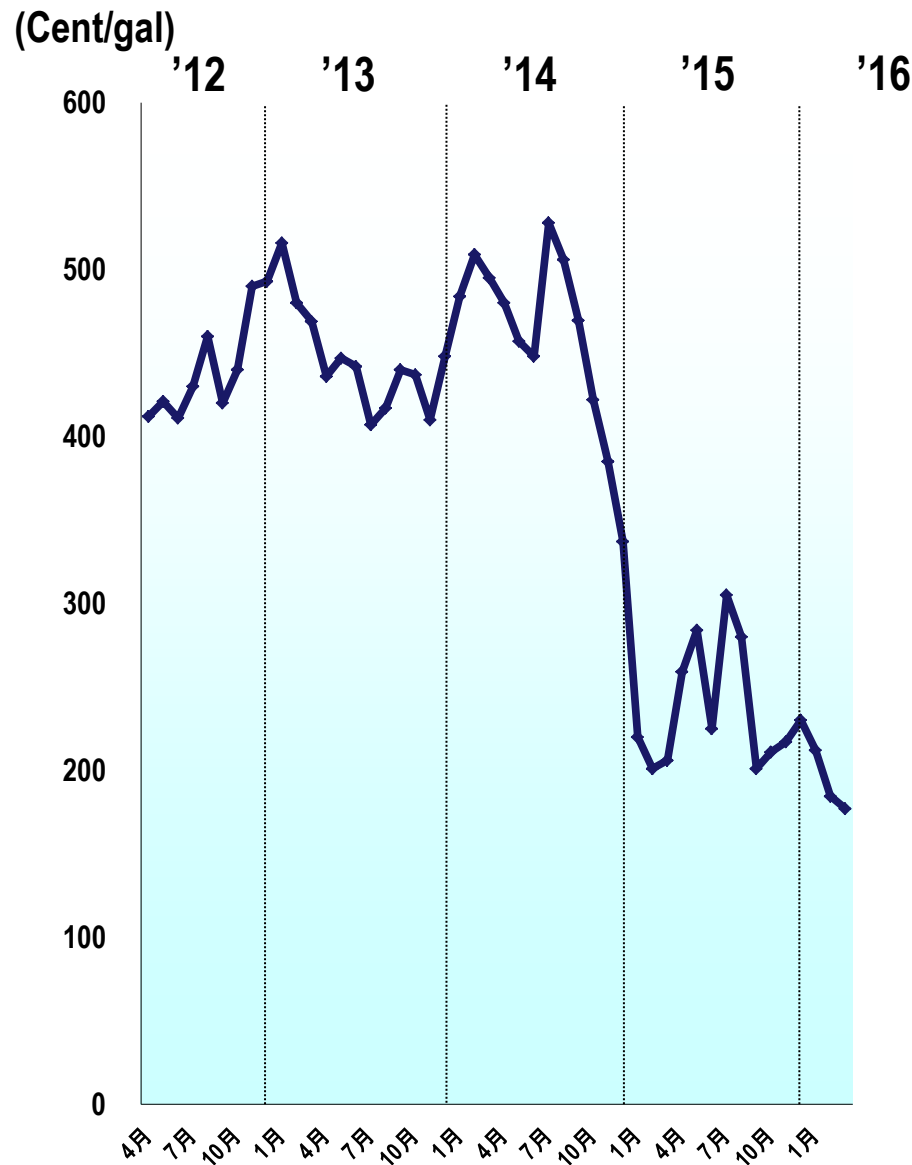
\* 詳細については決算短信をご覧ください

### ◆ ドバイ原油価格推移

### ◆ ベンゼン価格推移

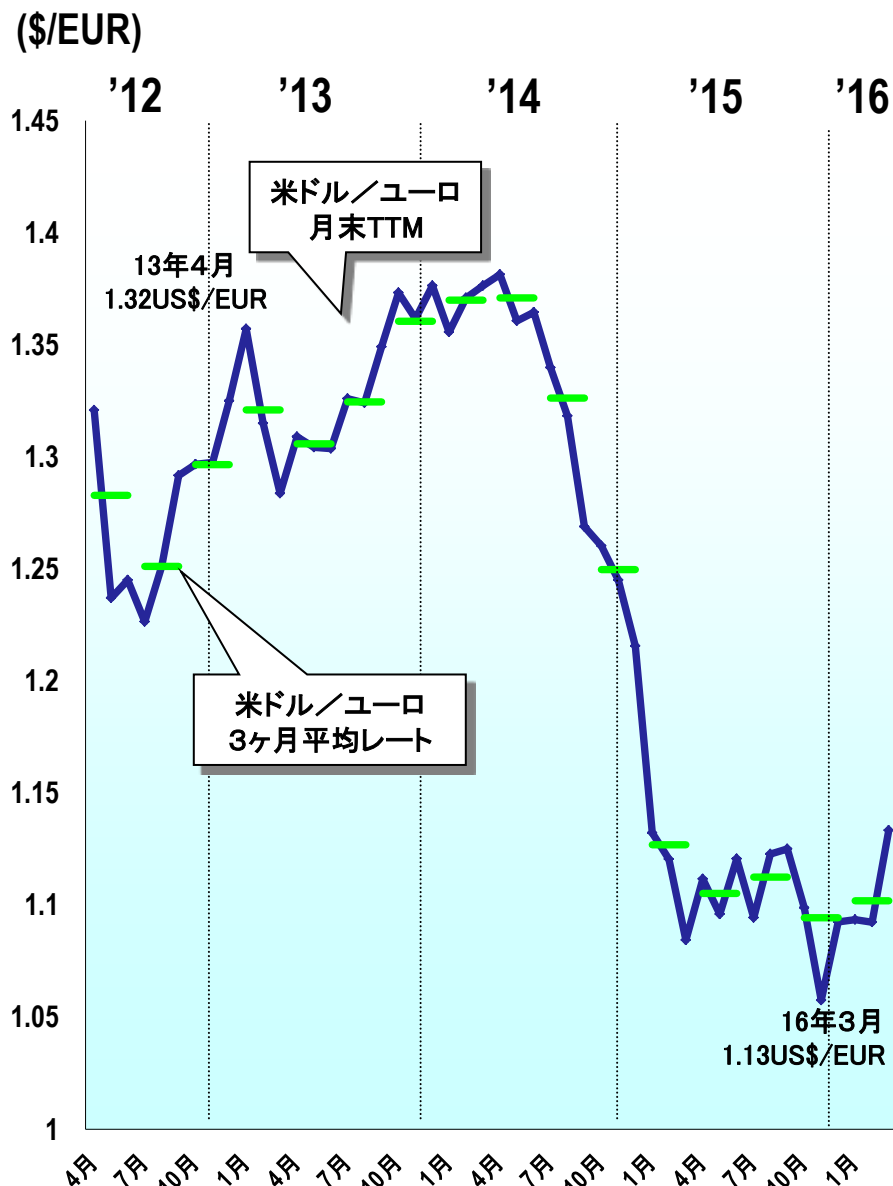
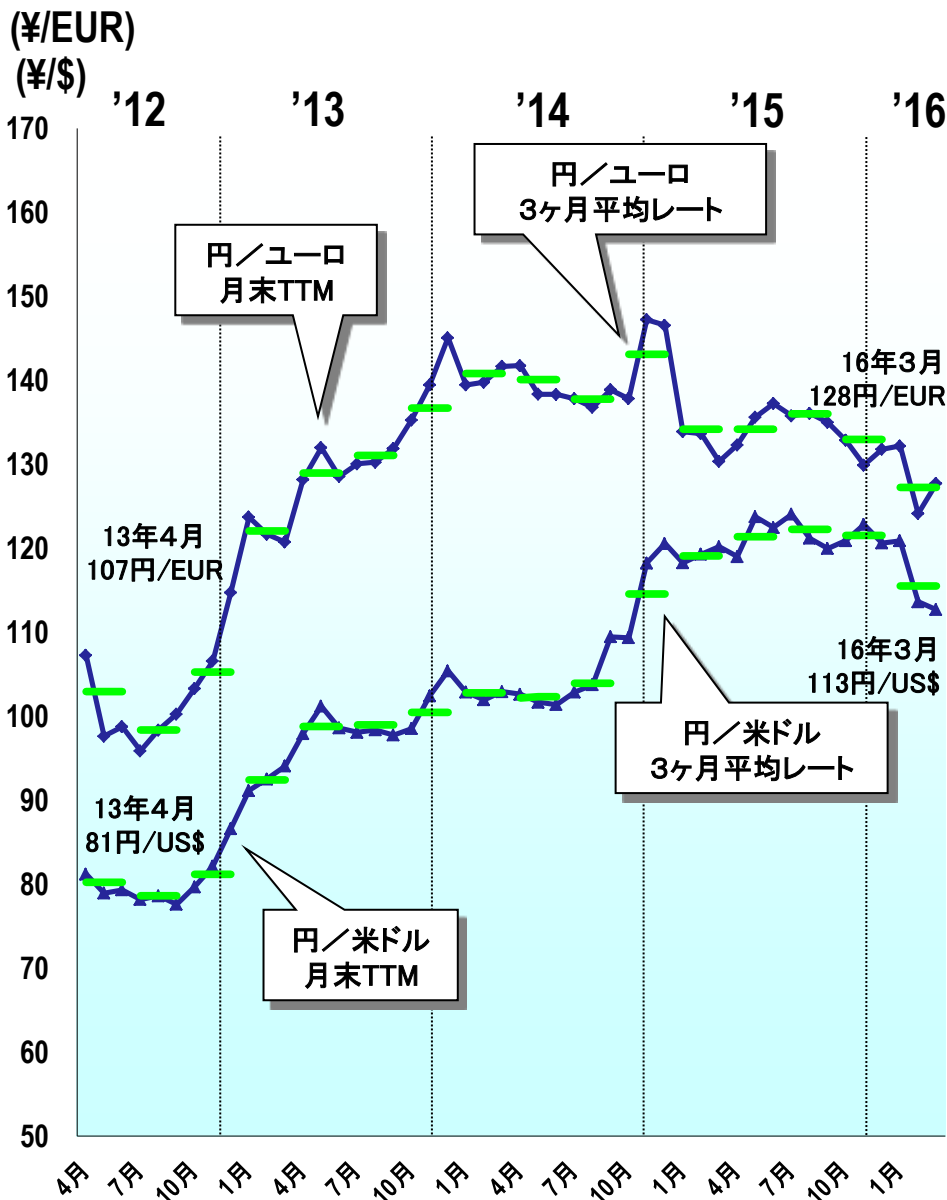


【出所:Platt's社のDATAを基に弊社推定】



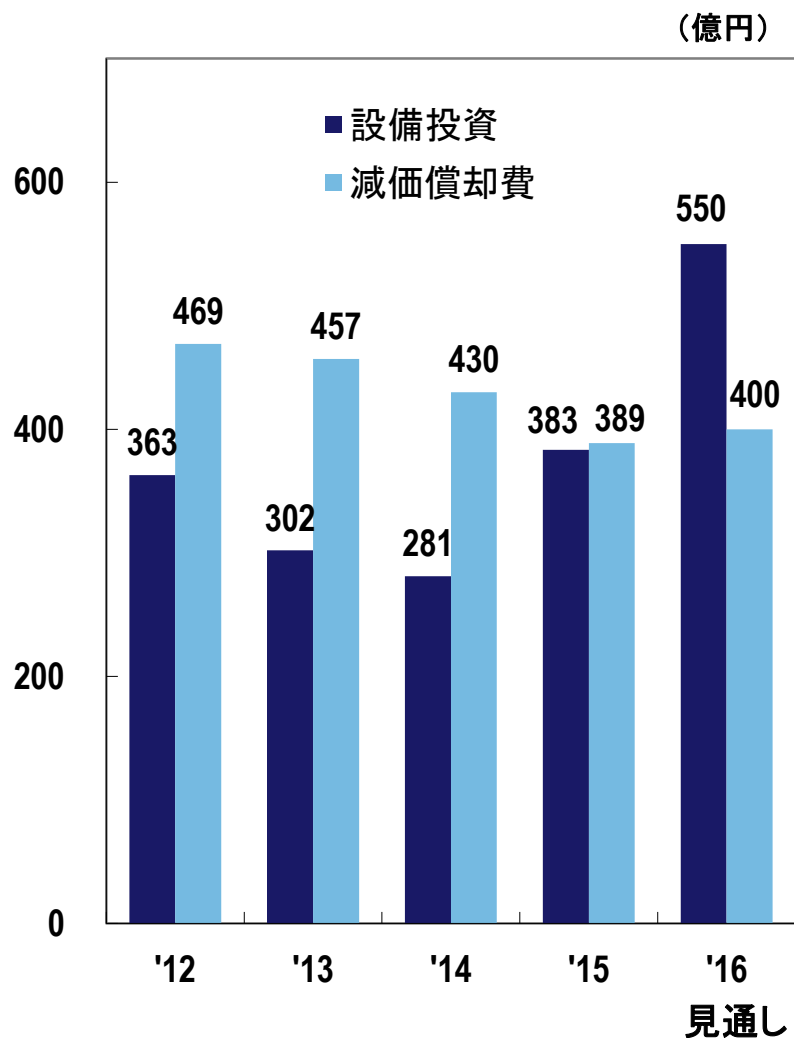
【出所:BZ DewittのDATAを基に弊社推定】

### ◆ 円/米ドル、円/ユーロ為替レート推移

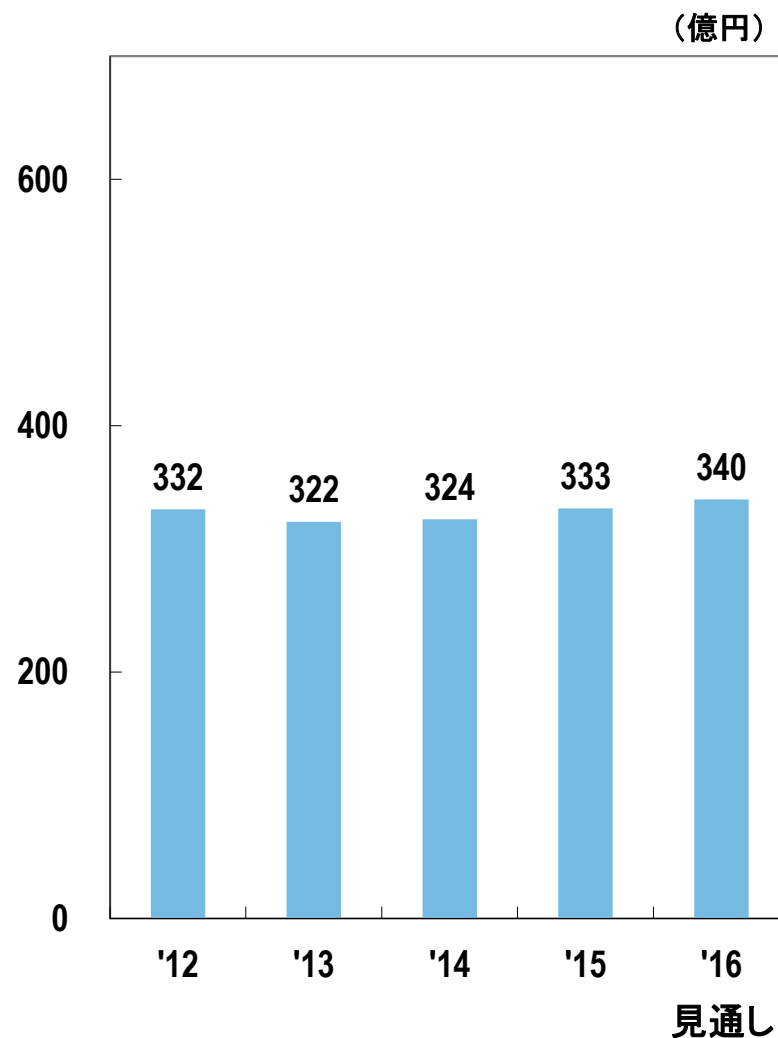


◆ 設備投資・減価償却費・研究開発費推移

設備投資・減価償却費



研究開発費



## ◆主要医薬品売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	14年度					15年度				
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q	4Q	計
ボナロン®*	骨粗鬆症治療剤	31	33	36	30	129	33	33	35	28	129
ワンアルファ®	骨粗鬆症治療剤	14	14	15	12	54	13	13	13	10	49
骨粗鬆症治療剤計		45	46	50	41	182	46	46	49	38	178
フェブリク®	高尿酸血症・痛風治療剤	28	39	47	41	155	48	52	60	53	213
ムコソルバン®	去痰剤	16	14	19	15	65	18	14	20	15	68
ベニロン®	重症感染症治療剤	25	24	28	21	98	25	0	13	6	44
ラキソベロン®	緩下剤	8	7	8	6	29	7	7	7	5	26
トライコア®	高脂血症治療剤	4	4	5	4	17	4	4	4	4	16
ソマチュリン®*	先端巨大症・下垂体性巨人症治療剤	2	3	3	3	11	3	4	4	4	15
オルベスコ®	喘息治療剤	3	3	4	3	12	3	3	3	3	12
ボンアルファ®	角化症治療剤	3	3	3	2	11	3	2	2	2	9

\*ボナロン®/Bonalon® はMerck Sharp & Dohme Corp.の登録商標です。

\*ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma, Paris, France の登録商標です。

	臨床開発段階				* 承認／新規上市は直近1年間を記載
	Phase I	Phase II	Phase III	申請	承認／ 新規上市
骨・関節 領域		ITM-058 KTP-001			
呼吸器 領域		PTR-36			NA872ET [ムコソルバン]
代謝・ 循環器領 域	TMG-123 TMX-049*1	ITM-014N [ソマチュリン®] (適応追加: 神 経内分泌腫瘍) TMX-67XR [フェブリク]	STM-279*4	TMX-67TLS [フェブリク] (適応追加: 腫瘍崩 壊症候群)*2 TMX-67 [フェブキソスタット] (中国)*3	
その他			GGs-ON, -MPA, -CIDP [ベニロン] (適応追加①: 視神経炎<ON>、 (適応追加②: 顕微鏡的多発血管 炎<MPA>) (適応追加③: 慢性炎症性脱髄性 多発根神経炎<CIDP>)		

\*1 新規高尿酸血症・痛風治療薬としてTMX-049の臨床開発を2015年4月に着手。

\*2 フェブリクの腫瘍崩壊症候群への適応拡大として開発中のTMX-67TLSは2015年7月厚生労働省に承認申請を実施。

\*3 中国でアステラス製薬(中国)有限公司と共同開発中の痛風・高尿酸血症治療剤「TMX-67」(一般名: フェブキソスタット)について2015年11月に中国国家食品薬品监督管理局に承認申請を実施。

\*4 英国シグマタウ社が創製したADA欠損症治療剤「EZN-2279」(国内開発コード: STM-279)の臨床開発を2016年1月に着手し、同年3月には厚生労働省より希少疾病用医薬品の指定を取得。

## ◆ 新規開発医薬品 (2016年3月末現在)

## 【承認取得】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
NA872ET (アムブロキシール塩酸塩)	去痰	既に販売している去痰剤アムブロキシール塩酸塩(ムコソルバン)の小型徐放錠。 ムコソルバンLカプセルより小さいため、服薬しやすく、分包性に優れることが期待される。	徐放錠	導入:独ベーリンガー ・インゲルハイム社 2015年2月承認取得 2015年7月販売開始

## 【承認申請】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMX-67TLS (フェブキソスタット)	腫瘍崩壊症候群	本剤の強力な尿酸生成抑制作用により、1日1回の投与で、悪性腫瘍に対する化学療法に伴う高尿酸血症の発症を抑制することが期待される。	錠剤	自社開発品 (適応追加) 2015年7月承認申請
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能であり、中国における高尿酸血症・痛風治療の新たな選択肢として、高尿酸血症・痛風患者のQOL (Quality of Life) 向上に貢献できることが期待される。	錠剤	共同開発:アステラス製薬(中国)有限公司 2015年11月承認申請



## 【Phase III】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害(多発性単神経炎)を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発: 化血研 (適応追加)
STM-279	ADA(アデニン・デアミナーゼ)欠損症	本剤(ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体)は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症(SCID)の発症を回避することが期待される。	注射	導入: 英シグマタウ社

## 【Phase II】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	神経内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導(直接的作用)や細胞栄養因子の分泌制御(間接的作用)を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入: 仏イプセン社(適応追加)
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。 既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と高い安全性(高カルシウム血症のリスク低減)が期待できる。	注射	導入: 仏イプセン社
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。 生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素(マトリックスメタロプロテアーゼ)と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。手術に代わる低侵襲性の治療法の選択肢を広げることができる。	注射	発明者: 波呂浩孝氏、小森博達氏 共同開発: 化血研
TMX-67XR (フェブキソスタット)	高尿酸血症・痛風	既に販売している高尿酸血症・痛風治療剤フェブキソスタット(フェブリク)の徐放剤。	経口	自社開発品
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序(CRTh2拮抗作用)によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。 単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果(軽症患者)や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果(軽症~重症の患者)が期待される。	錠剤	導入: 英プルマジェン・セラピューティクス(アズマ)リミテッド社

## 【Phase I】

開発コード(一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
TMG-123	2型糖尿病	新規作用機序(肝優位型GK活性化作用)による血糖コントロール薬。 血糖コントロールが不十分な患者で有効性が期待されるほか、高い利便性(1日1回投与、腎機能低下患者で用量調節の必要性低い、薬物相互作用の懸念が少ない等)が期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品

## ◆ 導入品目の状況 (直近3年間を記載)

導入契約	導入元	内 容
2015年3月	大正製薬(株)	変形性関節症の鎮痛・消炎を適応症とした、エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤TT-063の国内における販売権許諾契約を締結 (2015年9月：大正製薬(株)が製造販売承認を取得) (2016年1月：「ロコアテープ」として大正富山医薬品(株)と共同販売を開始)

# TEIJIN

*Human Chemistry, Human Solutions*

## *Human Chemistry, Human Solutions*

テイジンブランドの約束を“Human Chemistry, Human Solutions”と表現します。

この約束は、「人と地球環境に配慮した化学技術の向上と、社会と顧客が期待している解決策を提供することで本当の価値を実現することに挑戦し続けること」を意味しています。

私たちはこの約束を確実に成し遂げ、企業理念であるQuality of Lifeの向上に努め、社会と顧客から信頼される企業グループであり続けます。